

## 報 告

## 平成26年度佛教大学法然仏教学研究センター活動報告

## 第一部門 (1) 法然文献班

## ①元亨版『和語燈録』本文・現代語訳対照本作成

班長 角 野 玄 樹

## 研究目的

当研究班では、元亨版『和語燈録』全七巻の現代語訳研究をする。すなわち、元亨版『和語燈録』の本文・現代語訳註本の完成を目指す。

『和語燈録』とは、法然の曾孫弟子の了慧道光が編集したもので、法然の和語で記された文献・法語を収集したものである。同書には、いくつかの異本があるが、その中で、最も古い完本が、元亨版『和語燈録』と呼ばれるものである。元亨版『和語燈録』は、鎌倉期の元亨元年(1321)、編者の了慧道光自ら出版した版本とされるものである。

この『和語燈録』は、いわば、法然文献集ともいえるものであるが、そのような類のものは、『和語燈録』以前にも成立している。すなわち、醍醐本『法然上人伝記』や、親鸞筆『西方指南抄』などである。これらの法然文献集と並んで、『和語燈録』は、非常に重要な法然関係資料と目されている。

その重要な『和語燈録』の現代語訳は、法然研究の基礎を築く上で、必備のものであるが、同書の現代語訳は、既に、塚本善隆編『日本の名著 法然』(中央公論社)が出版されている。しかし、これは、江戸時代に開版された正徳版『和語燈録』の現代語訳であるようである。この正徳版は、元亨版と比べ、後代の文字の改変が多くなされており、法然研究をするには、不向きなテキストといえる。

そこで、法然研究をするにあたって、重要な法然文献集の一つであり、鎌倉期の古くに開版された、元亨版『和語燈録』の現代語訳が求められることになるのである。その完成を目指すのが、当研究班の目的である。

なお、当研究班については、故岸一英教授の追悼出版の後方支援をするためのものである。

すなわち、故岸教授をコーディネーターとして、佛教大学四条センターで行われた『和語燈録』の連続講義(平成14年10月～平成20年6月)で、担当者(岸、藤堂俊英、眞柄和人、本庄良文、安達俊英、善裕昭、伊藤真宏、角野)が作成した現代語訳や関係資料が既に存する。それらを基に、本文訳註対照表に編集し、出版するという計画が、岸教授逝去より後、藤堂俊英佛教大学教授を中心に進められている。その後方支援を当研究班が担うということである。

## 研究組織および専門分野

当研究では、浄土教の文献であり、法然文献である『和語燈録』の現代語訳研究であるため、浄土学・法然研究を専門とするメンバーで組織される。下記のとおり。

|       |                          |
|-------|--------------------------|
| 伊藤 真宏 | 仏教学部准教授（浄土学・日本仏教文化史）     |
| 角野 玄樹 | 佛教大学非常勤講師（法然文献研究・法然思想研究） |
| 市川 定敬 | 佛教大学非常勤講師（法然浄土仏教思想研究）    |
| 齋藤 蒙光 | 東海学園大学講師（法然浄土教）          |

## 平成26年度の研究

元亨版『和語燈録』の本文・現代語訳註本を完成させる目的の下、前年度の佛教大学総合研究所の「法然仏教の多角的研究」での研究から引き続き、故岸教授担当の現代語訳の検討をし、その検討後の資料を、本文訳註対照表に編集している。

また、故岸教授担当以外の現代語訳については、上記、佛教大学四条センターの連続講義の担当者に、現代語訳などのチェックを依頼しているところである。

## 研究会の開催（平成26年4月～12月）

日 時 平成26年4月25日(金) 16:15～17:45  
場 所 8号館伊藤真宏研究室  
参加者 班員3名  
内 容 岸教授担当訳の検討（「往生大要抄（四）」の「又世をそむきたる人こそ～申すべきぞかし。」まで。）

日 時 平成26年5月9日(金) 16:15～17:30  
場 所 8号館伊藤真宏研究室  
参加者 班員4名  
内 容 岸教授担当訳の検討（「往生大要抄（四）」の「又か様に申せば」から末尾まで。）

日 時 平成26年5月16日(金) 16:15～17:30  
場 所 8号館伊藤真宏研究室  
参加者 班員3名  
内 容 岸教授担当訳の検討（「念仏往生要義抄（一）」の冒頭から末尾まで。）

日 時 平成26年5月30日(金) 16:15～17:00  
場 所 8号館伊藤真宏研究室

報 告

参加者 班員 4 名

内 容 岸教授担当訳の検討（「七箇条の起請文 その三」の「一、ときどき別時の念仏を修して〜おそろしおそろし。」まで。）

日 時 平成26年 6 月11日(水) 10：30～12：20

場 所 8 号館伊藤真宏研究室

参加者 班員 3 名

内 容 岸教授担当訳の検討（「七箇条の起請文 その三」の「一、念仏はつねにおこたらぬが」から末尾まで、及び「念仏大意 その二」の冒頭から「さとりをもひらくべきなり。」まで。）

日 時 平成26年 6 月18日(水) 10：30～12：10

場 所 8 号館伊藤真宏研究室

参加者 班員 3 名

内 容 下記のとおり。

◇「往生大要抄（四）」本文訳註対照表の検討。

◇岸教授担当訳の検討（「念仏大意 その二」の「又一向専修の念仏門にいるなかにも」から末尾まで。）

日 時 平成26年 7 月 4 日(金) 16：15～17：35

場 所 8 号館伊藤真宏研究室

参加者 班員 3 名

内 容 下記のとおり。

◇「念仏往生要義抄（一）」本文訳註対照表の検討。

◇岸教授担当訳の検討（「念仏大意 その五」の冒頭から末尾まで、及び「浄土宗略抄 その二」の冒頭から「ほかをかざる心なきをいふなり。」まで。）

日 時 平成26年 7 月11日(金) 16：15～17：40

場 所 8 号館伊藤真宏研究室

参加者 班員 3 名

内 容 岸教授担当訳の検討（「浄土宗略抄 その二」の「詮じては、まことに穢土をいひ〜やうなる心ばへ也。」まで。）

日 時 平成26年 9 月26日(金) 16：15～17：30

場 所 8号館伊藤真宏研究室  
参加者 5名（研究員1名、班員4名）  
内 容 岸教授担当訳の検討（「浄土宗略抄 その二」の「念仏を申さんについて」から末尾まで、及び「浄土宗略抄 その七」の冒頭から「善導はすすめ給へる也。」まで。）

日 時 平成26年10月10日（金） 16：15～17：30

場 所 8号館伊藤真宏研究室

参加者 5名（研究員1名、班員4名）

内 容 下記のとおり。

◇「念仏大意 その二」「念仏大意 その五」本文訳註対照表の検討。

◇岸教授担当訳の検討（「浄土宗略抄 その七」の「自力といは、わがちからをはげみて～まことしからぬかたもありぬべし。」まで。）

日 時 平成26年11月7日（金） 16：15～17：30

場 所 8号館伊藤真宏研究室

参加者 5名（研究員1名、班員4名）

内 容 下記のとおり。

◇「七箇条の起請文 その三」本文訳註対照表の検討。

◇岸教授担当訳の検討（「浄土宗略抄 その七」の「それにこれをききながら～すて給はぬにこそあれ。」まで。）

日 時 平成26年12月5日（金） 16：15～17：30

場 所 8号館伊藤真宏研究室

出席者 班員4名

内 容 岸教授担当訳の検討（「浄土宗略抄（その七）」の「まことに悪をつくる人のやうに」から末尾まで、及び「要義問答 その二」の冒頭から「さる心なきやといへり。」まで。）

## 第一部門 (1) 法然文献班

### ②桑門秀我『選擇本願念仏集講義』現代語訳

班長 本 庄 良 文

#### 研究目的

本研究班（通称「桑門班」）は、浄土宗（鎮西派）の立場から法然の主著、『選擇本願念仏集』を解説した、桑門秀我『選擇本願念仏集講義』（明治26年）の現代語訳註を付することを目的としている。この講義は、著者自身、「予が今、講述する所は専ら徹選択、決疑鈔、および直牒に拠り、宗意の精要を陳ぶるに至りては、広く報夢五十余帖の定判を守り、傍ら古賢先哲の指南に従ひ、往々愚見を加へ、偏に初学に便するのみ」と言うように、法然の弟子弁長（1162-1238）、孫弟子良忠（1199-1287）、七祖聖岡（1341-1420）の系統の解釈を示したものである。つまり、この講義を研究することは、浄土宗の伝統的な解釈の筋道を辿ることを意味している。

特に戦後の、歴史学を中心とした「自由化」の波により、法然研究は、従来のような宗派の枠内で、註釈に註釈を重ねてゆく、いわば閉じられたものでなくて、より広い視野に立った、いわば研究のあるべき姿を示していると言ってよい。またその流れに呼応するように、『選擇集』についてのもっとも定評のある解説書、石井教道『選択集全講』（平楽寺書店）も、著者が浄土宗（鎮西派）に属することから基本的にはその流派の解釈を示すものとは言え、同時に証空（西山系）、親鸞（真宗系）らの解釈にも配慮した、バランスのとれたものとなっている。しかし、その自由化の流れの豊かさに逆比例するように、浄土宗に限らず、流派内の伝統的解釈を体現するような、巨大な宗学者が極端に減少しており、また個々の研究者にも、伝統的な教理の理解が薄れてきている現状があると考えられる。このような情況に鑑み、まさしく鎮西派の教学を一身に体現した桑門秀我（1859-1939）の講義は、長らく忘れ去られている現状であればなおさら、その価値は特筆されるべきである。

ただし、この作業は、諸刃の剣であるかもしれない。というのは、法然の教義を微妙なところに至るまで探る作業はこの研究班のみならず、プロジェクト全体で果たしてゆくべき課題であるが、他方、この鎮西派の伝統的な解釈そのものが法然の教義を忠実に継承するものであるかどうかを見極めることも、この研究のもうひとつの目的であり、場合によっては法然教義と伝統宗学との間の乖離を認めざるを得ない事態に立ち至ることになる可能性があるのである。

#### 研究組織および専門分野

現在、研究員である本庄良文と、正式の研究員としては名を連ねていない協力者である上野忠昭氏（香川県高松市）とで作業を進めている。つまり、現時点では正式の班員は以下の一名

である。ただし、関心をもつ研究員、研究協力者は多いので、原稿の完成に近付くにつれて、協力を仰ぐこととなろう。

本庄 良文 仏教学部（浄土学・仏教学）

### 平成26年度の研究

全16章のうち、第一章の一部、第三章から第六章、第十三章から第十五章、第十六章の一部を本庄が、それ以外を上野が受け持ち、全体の下原稿が完成している。修正作業は主として上野が行っている。

### 研究会の開催

班としては行っていない。ただし、インターネットの掲示板等で常時、進行情況を報告している。

## 第一部門 (2) 『逆修説法』班

班長 眞 柄 和 人

### 研究目的

『逆修説法』は、中原師秀が中陰の逆修法要を催した折の、法然上人の説法を記録したものである。諸本の影印・翻刻・対照（宇高良哲『逆修説法諸本の研究』1988、岸一英代表『逆修説法漢語三本対照』私家版1991）により研究に便宜があたえられている。現在、二種の全訳（大橋俊雄『法然全集』春秋社、眞柄和人『傍訳 逆修説法』上下巻、四季社）も出ているが、改訂の余地がある。

この資料研究の意義は以下の通りである。

- ・『選択集』以前の法然思想の論点が解明される。
- ・伝統宗学と『逆修説法』の関係が明確化される。
- ・『逆修説法』諸本の綿密な研究によって、日本仏教における法然浄土教の位置づけがより明確となる。

この研究班では、諸本の綿密な対照研究により翻刻・現代語訳・注を作成することを通して、法然上人研究の進展に寄与することを目的とする。

### 研究組織および専門分野

|       |                                   |
|-------|-----------------------------------|
| 眞柄 和人 | 知恩院浄土宗学研究所嘱託研究員（法然仏教伝承過程）         |
| 齋藤 蒙光 | 東海学園講師（法然浄土教）                     |
| 吉原 寛樹 | 佛教大学大学院文学研究科浄土学専攻修士課程修了（『逆修説法』研究） |
| 岩谷 隆法 | 佛教大学大学院文学研究科浄土学専攻博士後期課程満期退学（法然文献） |

### 平成26年度の研究

善照寺本『古本漢語燈録』巻七を基礎資料として、他の諸本の本文を参照、比較対照しながら、『逆修説法』の翻刻・現代語訳・註釈を完成させる作業を行っている。平成25年度の研究会で『写真集成本』（浄土宗総合研究所編『黒谷上人語燈録写真集成』1）181頁7行目までの作業が終了し、平成26年度は、引き続き下記のごとく研究会がおこなわれている。

### 研究会の開催（平成26年4月～12月）

日 時 4月18日（金）15：45～17：45

場 所 別館401号室

参加者 班員 3 名（眞柄、吉原、岩谷）

内 容 吉原寛樹担当『写真集成本』181頁 7 行目～182頁 6 行目  
「還念」の解釈について討議。

岩谷隆法担当『写真集成本』182頁7行目～184頁6行目  
分担箇所 of 訓読を諸本と対照し討議。

日 時 5 月 9 日(金) 14：00～16：00

場 所 浄土宗学研究所

参加者 班員 4 名（眞柄、齋藤、吉原、岩谷）

内 容 齋藤蒙光担当『写真集成本』184頁 6 行目～188頁 4 行目  
「常光」について討議。

日 時 5 月30日(金) 14：00～16：00

場 所 別館401号室

参加者 班員 2 名（齋藤、吉原）

内 容 齋藤蒙光担当『写真集成本』188頁 4 行目～191頁 2 行目  
灯指比丘が引用される箇所の訓読・現代語訳について討議。

日 時 6 月13日(金) 14：30～16：30

場 所 別館401号室

参加者 班員 4 名（眞柄、齋藤、吉原、岩谷）

内 容 齋藤蒙光担当『写真集成本』191頁 2 行目～195頁 6 行目  
阿那律が引用される箇所の訓読・現代語訳について討議。

日 時 6 月20日(金) 13：00～14：40

場 所 別館401号室

参加者 班員 4 名（眞柄、齋藤、吉原、岩谷）

内 容 岩谷隆法担当『写真集成本』195頁 6 行目～199頁 1 行目  
恵心僧都の四句について討議。

日 時 7 月18日(金) 12：00～14：15

場 所 別館401号室

参加者 班員 4 名（眞柄、齋藤、吉原、岩谷）



報 告

内 容 岩谷隆法担当『写真集成本』199頁1行目～202頁6行目  
『大唐大慈恩寺三蔵法師伝』について討議。

日 時 8月29日(金) 12:30～15:00

場 所 別館401号室

参加者 班員4名(眞柄、齋藤、吉原、岩谷)

内 容 吉原寛樹担当『写真集成本』202頁7行目～204頁5行目  
不更悪趣の願について討議。

日 時 9月5日(金) 12:30～14:00

場 所 別館401号室

参加者 班員4名(眞柄、齋藤、吉原、岩谷)

内 容 吉原寛樹担当『写真集成本』204頁5行目～206頁10行目  
訳注における経典名の表記の統一について討議。

日 時 9月26日(金) 12:00～13:30

場 所 別館401号室

参加者 班員4名(眞柄、齋藤、吉原、岩谷)

内 容 吉原寛樹担当『写真集成本』206頁10行目～208頁7行目  
「望仏本願」の訓読について討議。

日 時 10月3日(金) 12:00～14:00

場 所 別館401号室

参加者 班員3名(齋藤、吉原、岩谷)

内 容 吉原寛樹担当『写真集成本』208頁8行目～211頁5行目  
法照禅師の教えについて討議。

日 時 10月24日(金) 12:00～14:30

場 所 別館401号室

参加者 班員3名(眞柄、齋藤、吉原)

内 容 吉原寛樹担当『写真集成本』211頁5行目～213頁10行目  
「大小ノ戒経」の解釈について討議。

日 時 11月7日(金) 13:00～14:30

場 所 別館401号室

参加者 班員 3 名（眞柄・齋藤・吉原）

内 容 吉原寛樹担当『写本集成』213頁10行目～214頁10行目  
諸本を対照し、書き下しについて討議。

日 時 11月28日(金) 13：00～14：20

場 所 別館401号室

参加者 班員 4 名（眞柄・齋藤・吉原・岩谷）

内 容 吉原寛樹担当『写本集成』214頁10行目～216頁10行目  
諸本の奥書について討議。

日 時 12月12日(金) 13：00～14：30

場 所 別館401号室

参加者 班員 4 名（眞柄・齋藤・吉原・岩谷）

内 容 齋藤蒙光担当『写本集成』217頁1行目～218頁10行目  
諸本を対照し、書き下しについて討議。

## 第二部門 (3) 『摧邪輪』班

班長 米 澤 実江子

### 研究目的

明恵（1173-1232）撰述の『摧邪輪』（3巻）は、法然（1133-1212）撰述の『選択集』の内容に対して、大小16の批判を挙げて法然の仏教理解を糺改することを目的として著された。当研究班では、法然と同時代の明恵による『選択集』批判をとおして、当時の仏教者の専修念仏への理解の一端を探究すべく、『摧邪輪』の訳註を行うことを目的とする。

### 研究組織および専門分野

中御門敬教 佛教大学非常勤講師（インド・チベット浄土教／顕密の浄土教）  
米澤実江子 浄土宗総合研究所嘱託研究員（日本仏教〔中世〕）

### 平成26年度の研究

『摧邪輪』には数本の写刊本が存在し、既に寛永年間版本を底本とした、書き下し（全）・校補注（全）・現代語訳（巻上）が公にされている。当班では昨年度より寛永年間版本巻中からの書き下し・注・訳の確認作業を始め、本年度も同様の作業を継続している。

### 研究会の開催（平成25年4月～平成26年12月）

#### ◆平成25年度（前身：法然仏教の多角的研究）

第1回研究会：底本と表記の基準についての確認。

〔日／場所〕4月23日（火）／図書館3F グループ学習室2

〔参加者〕本庄良文・中御門敬教・米澤実江子

第2回研究会：書き下し・現代語訳の検討。「巻中」1丁表1行～1丁裏1行。

〔日／場所〕5月14日（火）／図書館3F グループ学習室2

〔参加者〕本庄良文・中御門敬教・米澤実江子

第3回研究会：書き下し・現代語訳の検討。「巻中」1丁裏2行～7行。

〔日／場所〕5月28日（火）／図書館3F グループ学習室2

〔参加者〕中御門敬教・服部純啓（院生）・米澤実江子

第4回研究会：書き下し・現代語訳の検討。「巻中」1丁裏7行。

〔日／場所〕6月4日（火）／図書館3F グループ学習室2

〔参加者〕中御門敬教・服部純啓（院生）・米澤実江子

第5回研究会：書き下し・現代語訳の検討。「巻中」1丁裏7行～2丁表2行。

〔日／場所〕6月18日(火)／図書館3Fグループ学習室2

〔参加者〕中御門敬教・服部純啓(院生)・米澤実江子

第6回研究会：書き下し・現代語訳の検討。「巻中」2丁表2行～3丁表3行。

〔日／場所〕7月2日(火)／図書館3Fグループ学習室2

〔参加者〕中御門敬教・服部純啓(院生)・米澤実江子

第7回研究会：書き下し・現代語訳の検討。「巻中」3丁表3行～3丁裏8行。

〔日／場所〕7月16日(火)／図書館3Fグループ学習室2

〔参加者〕中御門敬教・米澤実江子

8月：休み。

9月：中止。以後の研究会は開催せず、米澤が確認作業を継続。

10月：書き下し・現代語訳の検討。「巻中」～19丁表。

11月：書き下し・現代語訳の検討。「巻中」～21丁表。

12月：書き下し・現代語訳の検討。「巻中」～23丁表。

1月：書き下し・現代語訳の検討。「巻中」～24丁表。

2月：書き下し・現代語訳の検討。「巻中」～29丁表(第4の批判終了)。

◆平成26年度

4月：「第4の批判」書き下し・現代語訳・凡例の検討。

5月：「第4の批判」書き下し・現代語訳・凡例の検討。註の選定。

6月：「第4の批判」書き下し・現代語訳・凡例の検討。註の選定。

7月：巻中「冒頭～」書き下し・注記のまとめ。

9月：巻中「冒頭～」書き下し・注記のまとめ。

10月：『法然仏教学研究センター紀要』創刊号掲載原稿の作成。

11月：「巻中」～33丁表。

12月：「巻中」～35丁表。

## 第二部門 (4) 門下班

班長 伊 藤 茂 樹

### 研究目的

本研究における目的は従来の法然門流研究の現状や歴史を再確認することに重点的に行う。門流の研究は、江戸期より多大な積み重ねが存在し、また近年においても多大な研究の蓄積は存する。このような門下研究について、当研究センターにおいても研究者間において共通の問題意識や、現況の認識が存在することはないため、まずは近年の研究状況を把握することから確認し、研究論文の目録作製を進めていく。具体的には下記の如くである。

- ・ 定期的な研究会を行い、そこでは門流研究の現況分析を行う。
- ・ 上記の研究会では、個別的な人師の思想研究に特化するのではなく、門流の活動における展開や背景まで幅広い視座から取り組むことを目標とする。
- ・ 『三上人研究』以降、聖光、源智、良忠の研究目録が存在していない。『三上人研究』出版以降の目録を作成する。
- ・ 聖光、源智、良忠以降の鎮西義研究、また西山派、時宗、その他の門流についての研究目録作成もすすめる。

### 研究組織および専門分野

伊藤 真宏 佛教大学 仏教学部 准教授（浄土学、日本仏教文化史）

伊藤 茂樹 法然仏教学研究センター嘱託研究員（日本浄土教、浄土宗学）

### 平成26年度の研究

研究班の始動が今年度10月からのため、具体的な研究活動ははじまったばかりで方針を模索している段階であるが、手始めに、これまでの研究目録の収集や目録のデータ化をはじめている。たとえば、隆寛や三上人（聖光・良忠・源智）はこれまでの一定の研究蓄積があるため、これらを課題としてすすめている。なお、全体会で伊藤茂樹は「法然門流の研究―長楽寺隆寛から」として、法然門下の隆寛の研究史について発表した。これまでの隆寛研究の課題や成果をまとめたのであるが、門下班の研究会でも、このような課題を検討し、門下研究の近況等进行分析している。本学大学院博士課程の杉山憲成、修士課程の齊藤善昭・加藤良全の3名も加え、進めてゆく方針である。

## 研究会の開催（平成26年4月～12月）

### 第1回 研究会

日 時 10月17日(金) 16:00～17:00

場 所 伊藤真宏研究室

参加者 伊藤真宏、伊藤茂樹（杉山、加藤）

本研究会のあり方と研究の目的を話あった。本研究会では、門流研究の現況の分析と具体的な成果として目録作成という目標があるが、これまでの研究目録、たとえば、『三上人研究』における三上人の目録や、福原隆善『隆寛』等の隆寛研究の目録等、既発の研究目録をあげて課題を話あった。

### 第2回研究会

日 時 11月11日(火) 14:30～16:30

場 所 伊藤真宏研究室

参加者 伊藤真宏、伊藤茂樹（杉山、齊藤、加藤）

内 容 作業の方向性の確認、研究目録の収集を図書館で行った。

## 第二部門 (5) 『往生要集鈔』関係班

班長 南 宏 信

### 研究目的

本研究の目的は浄土宗鎮西派第三祖良忠（1199-1287）撰『往生要集鈔』が近世初期に編集を経て『往生要集義記』となる変遷過程を、中世の新出写本に依拠しつつ実証的に解明することである。

近年の仏教学におけるデジタル画像、電子テキストの公開は、インターネット上で目覚ましい速度で展開し（IDP、高麗大蔵經研究所、日本古写經 DB、SAT、CBETA、浄土宗全書検索システム、『浄土教典籍目録』等）、我々は日々その恩恵を受けている。

しかし問題もまた内在する。例えば『浄土宗全書』（全20巻）の殆どは近世の版本を底本としており、後人の増広・編集が加えられた文献までも無批判に掲載している。つまり中世の人物・歴史を研究する際、依拠すべき古写本があるにもかかわらず、改編された近世の版本を無批判に根本資料にすることが往々にして確認できる。まさに目的と方法論が齟齬をきたしている未発達の研究状況といえる。我々は過去そのものと直結してはおらず、連綿と受け継がれながら変容してきた思想の延長線上に立っている。よって中世から近世にわたる浄土宗の問題意識を実証的に解明することは、看過すべきでない重要な課題であると捉える。

従来『往生要集義記』の研究は『浄土宗全書』所収の活字本に依拠してきたが、これは近世の版本を底本とする。近世の版本には後人による改竄問題がしばしば指摘されているが、それを意識した研究は十分ではなかった。そこで新出の中世写本と近世版本とを峻別し、①典籍の原初形態を解明する遡及的研究（基底）を実施し、かつ両書の比較を通じて②近世初期における浄土宗の問題意識（展開）を可視的にする。それにより従来の研究における目的と方法の齟齬を是正し、その典籍の改竄を「近世初期浄土宗の問題意識の表出」として積極的に位置付け直すことを目指す。

上記作業と連携して『往生要集義記』の現代語訳を順次作成していく。

### 研究組織および専門分野

本庄 良文（浄土学・仏教学）

南 宏信（仏教文献学（浄土学））

### 平成26年度の研究

- ・『往生要集義記』現代語訳

適宜作業を継続中である。

- ・『往生要集鈔』諸本の翻刻

各諸本の蒐集・整理を行った。また諸本の所蔵機関に翻刻許可を申請中である。



## 第二部門 (6) 中国関係班

班長 齊 藤 隆 信

### 研究目的

法然の『選択集』は、道綽（562-645）が『安楽集』で立てた「聖浄二門」の教判からはじまる。これは時機相応の教えとしての浄土門こそが、末法五濁悪世における唯一確実な得道の教法であることを示す教判である。そこで本研究班においては、法然にその仏教観の基盤を提供した道綽の『安楽集』二巻に対する訳註を作成することを目的とする。

### 研究組織および専門分野

|       |                             |
|-------|-----------------------------|
| 齊藤 隆信 | 仏教学部（浄土教思想、中国仏教）            |
| 曾和 義宏 | 仏教学部（浄土学、中国浄土教理史）           |
| 加藤 弘孝 | 知恩院浄土宗学研究所（中国仏教、浄土教思想）      |
| 永田 真隆 | 文学研究科博士後期課程浄土学専攻満期退学（往生伝研究） |

### 平成26年度の研究

毎回の研究会では『安楽集』の訳註を作成している。同書の訳註はこれまでも数回報告されているが、今回改めて訳註班を立ちあげたのは、宗典研究にありがちな依義判文や望文生義への反省がこめられている。ただし、班員はこれらをすべて否定し排除するのではなく、『安楽集』をいったん漢籍として、その語彙語法に注意を払いながら、一字一句ゆるがせにせず精読することにつとめている。

### 研究会の開催（平成26年4月～12月）

#### 第1回研究会

日 時 4月11日(金) 10:40～12:10

内 容 「第二大門中～名曰菩提」（第2大門 三番料簡）の訳註

#### 第2回研究会

日 時 4月25日(金) 10:40～12:10

内 容 「第三顕発心有異者～故能感也」（第2大門 問答解釈）の訳註

#### 第3回研究会

日 時 5月9日(金) 10:40～12:10

内 容 訳 「是故大智度論云～是順菩提門」（第2大門 問答解釈）の訳註

第4回研究会

日 時 5月23日(金) 10:40～12:10

内 容 「三者楽清浄心～一一破之」(第2大門 発菩提心・破異見邪執)の訳註

第5回研究会

日 時 6月6日(金) 10:40～12:10

内 容 「第一破妄計大乘無相者～一切得往生也」(第2大門 破異見邪執)の訳註

第6回研究会

日 時 7月4日(金) 10:40～12:10

内 容 「是故維摩經云～得涅槃故」(第2大門 破異見邪執)の訳註

第7回研究会

日 時 7月18日(金) 10:40～12:10

内 容 「第二会通菩薩愛見大悲者～是心外法也」(第2大門 破異見邪執)の訳註

第8回研究会

日 時 9月26日(金) 13:00～14:30

内 容 「二問答解釈～此深淺理也」(第2大門 破異見邪執)の訳註

第9回研究会

日 時 11月7日(金) 13:00-14:30

内 容 「第四破願生穢土～何有着楽之理也」(第2大門 破異見邪執)の訳註

第10回研究会

日 時 11月28日(金) 13:00-14:30

内 容 「第六破求生浄土～是故稽首清浄勲」(第2大門 破異見邪執)の訳註

第11回研究会

日 時 12月12日(金) 13:00-14:30

内 容 「第八校量願生十方浄土～何不去也」(第2大門 破異見邪執)の訳註

### 第三部門 (7) 伝宗伝戒班

#### ①『真葛伝語』諸本蒐集および教理的根拠の探索

班長 眞 柄 和 人

##### 研究目的

浄土宗では伝統的な教えを継承する独特の方法が考案され（七祖聖岡〈1341－1420〉より）、現在まで継承されている。それは教義を伝える部門（伝法）と、大乘菩薩戒を伝える部門（伝戒）とに分かれている。しかし、伝宗関係の書籍（伝書）の内容は「秘儀」となっている部分もあり、学術的なメスが入れられたことがない。伝宗伝戒班（班長：眞柄）では、そのような部分も含めて、問題点がどこにあるかを探るところから始めている。

##### 研究組織および専門分野

|       |                                       |
|-------|---------------------------------------|
| 眞柄 和人 | 知恩院浄土宗学研究所嘱託研究員（浄土仏教学）                |
| 高津 晴生 | 佛教大学大学院文学研究科浄土学専攻博士後期課程満期退学（浄土宗における戒） |
| 武田 真享 | 佛教大学大学院文学研究科浄土学専攻博士後期課程在学中（厭欣思想）      |

##### 平成26年度の研究

伝書のひとつである『真葛伝語』の本文を確定しながら訳注を行っている。

また研究員の個別の関心に応じて、七祖聖岡の思想や菩薩戒の研究を進めている。研究会については、大学院生も参加し進めている。

##### 研究会の開催（平成26年4月～12月）

|     |  |             |
|-----|--|-------------|
| 日 時 | 平成26年4月8日(火)                                       | 13時～16時     |
| 場 所 | 佛教大学   | 8号館1階 共同資料室 |
| 出席者 | 眞柄、武田、高津   |             |
| 範 囲 | 35頁3行「第二坐具（の）伝とは、……」～38頁4行「……同じ意味なり」の本文入力と現代語訳（高津） |             |
| 内 容 | 「坐具伝」、「能入」、「我が宗の因りて興る本基」について討議した。                  |             |

|     |               |             |
|-----|---------------|-------------|
| 日 時 | 平成26年4月15日(火) | 14時～17時     |
| 場 所 | 佛教大学          | 8号館1階 共同資料室 |

出席者 眞柄、武田、高津

範 囲 38頁 4 行「次に信法の伝とは、……」～40頁 6 行「……表すと知べし」の本文入力と現代語訳（武田）

内 容 「信法伝」、「決定」、「安住」、「物体」について討議した。

日 時 平成26年 5 月13日(火) 14時～16時30分

場 所 宗研

出席者 眞柄、武田、高津

内 容 要偈「四句の偈」と『選択集』の比較検討

日 時 平成26年 6 月24日(火) 16時15分～18時

場 所 佛教大学 別館 法然仏教学研究センター研究室402号室

出席者 眞柄、武田、高津

範 囲 40頁 7 行「凡そ古人は……」～41頁 5 行「……是正し玉はば幸甚」本文入力と現代語訳（高津）

内 容 本文中「訳」の字体の確認。

日 時 平成26年 7 月 4 日(金) 10時～12時

場 所 佛教大学 8 号館 1 階 共同資料室

出席者 眞柄、武田、高津、北川（大学院生）

範 囲 41頁 6 行「第三自証門とは……」～43頁 7 行「……判じ玉ふなり」本文入力と現代語訳（武田）

内 容 「自証」、「機」、「質」、「本機」、「宗門第一の機」、「自己自証決定」について討議した。

日 時 平成26年 7 月18日(金) 10時30分～12時30分

場 所 佛教大学 8 号館 1 階 共同資料室

出席者 眞柄、武田、高津、北川（大学院生）

範 囲 43頁 7 行「扱て此の伝は……」～45頁 1 行「……露も知られぬことなり」本文入力と現代語訳（高津）

内 容 「信機・信法」、「証解」、「自証決定」、「宗門の規則・役目」について討議した。

日 時 平成26年 8 月29日(金) 10時～12時

場 所 佛教大学 8 号館 1 階 共同資料室

報 告

出席者 眞柄、武田、高津、北川（大学院生）

範 囲 45頁 2行「第四授手印の伝とは……」～46頁 8行「……これを詳らかにせよ」

本文入力と現代語訳（北川）

内 容 「授手印伝」、「印可決定の手印」、「信法半印能左所右」について討議した。

日 時 平成26年 9月19日（金） 10時～11時30分

場 所 佛教大学 8号館 1階 共同資料室

出席者 眞柄、武田、高津、北川（大学院生）

範 囲 46頁 5行「扱又第二重脈譜に……」～47頁 5行「……取捨情に任す」本文入力と現代語訳（北川）

内 容 「手次の印・証誠の手印」、「師資合血」について討議した。

日 時 平成26年10月 3日（金） 10時～12時

場 所 佛教大学 8号館 1階 共同資料室

出席者 眞柄、武田、高津、北川（大学院生）

範 囲 47頁 6行「第五通五個……」～48頁 7行「……授与するなり」本文入力と現代語訳（武田）

内 容 「五通五個」、「初重・往生得不」について討議した。

日 時 平成26年10月24日（金） 10時～12時

場 所 佛教大学 8号館 1階 共同資料室

出席者 眞柄、武田、高津、北川（大学院生）

範 囲 48頁 8行「二重は五種正行……」～49頁 5行「……譜脈等を授与するなり」本文入力と現代語訳（武田）

49頁 6行「三重は此れは……」～50頁 2行「……脈譜を授与す」本文入力と現代語訳（高津）

内 容 「二重・心行作業行儀、六重二十二件五十五の法数」、「三重・領解」について討議した。

日 時 平成26年11月 7日（金） 10時～11時30分

場 所 佛教大学 8号館 1階 共同資料室

出席者 眞柄、武田、高津、北川（大学院生）

範 囲 50頁 3行「四重は此れは……」～50頁10行「……脈譜を授与す」本文入力と現代語訳（高津）

内 容 「四重・証知」「釈義通答」について討議した。

日 時 平成26年11月28日(金) 10時30分～12時30分

場 所 佛教大学 8号館1階 共同資料室

出席者 眞柄、武田、高津、北川(大学院生)

範 囲 51頁1行「第五重は……」～52頁1行「……後に至りて弁ずべし」本文入力確認  
と現代語訳(高津)

52頁2行「第六面上伝とは……」～54頁2行「……口外すべからざるものなり」  
本文入力確認(北川)

内 容 「第五重」の項目と「九個條・五個條」の項目との重複部分について討議した。

日 時 平成26年12月5日(金) 10時30分～12時00分

場 所 佛教大学 8号館1階 共同資料室

出席者 眞柄、武田、高津、北川(大学院生)

範 囲 52頁2行「第六面上伝とは……」～3行「……昭灼(あきらか)なり」現代語訳  
(北川)

内 容 「面上」の使用例の確認と語意について討議した。

### 第三部門 (7) 伝宗伝戒班

#### ③聖岡撰『決疑鈔直牒』身延文庫本の研究

班長 南 宏 信

##### 研究目的

本研究は浄土宗鎮西派第七祖聖岡（1341-1420）撰『決疑鈔直牒』の諸本を整理し、その系譜と本文の異同を確定することを目的とする。

同一の書名にもかかわらず、伝本によって内容に相違がある場合、まず必要な基礎作業は、それら諸本を整理・校勘することである。例えば浄土宗文献の場合、法然に関する整理・研究・出版等は相当程度進んでいるといえる。これは法然が宗祖であることを勘案すれば至極当然のことであろう。法然研究は多岐にわたり、特に近代以降に盛んになる仏教学、歴史学、哲学、文献学等との関わりのもと、成果を蓄積している。それに比して法然以降の研究は、文献の整理段階ですら十分になされていないこともしばしばある。その原因としては文献的な制限もあるが、宗祖の研究に関心が集まり、その他の列祖にまで関心が及ばないこともあげられよう。また『浄土宗全書』が刊行されたことにより、その恩恵をうけながらも、直接原本を繙くことが少なくなったことも一因としてあろう。近年『浄土教典籍目録』（佛教大学総合研究所、2011年）が刊行された。当該目録はインド（漢訳）、チベット・中国・朝鮮・日本の浄土教関連の典籍を網羅したものであり、筆者もその恩恵にあずかる者である。しかし本研究で扱う『決疑鈔直牒』は採録されておらず、それを補完する意味においても本研究に意義を見出すものである。

我々の教学的基礎は、法然から直接繋がっているのではなく、列祖たちにより連綿として受け継がれてきた延長線上にあるといえる。本研究では、江戸初期の版本よりも百年遡る身延文庫本を中心に諸本の整理をすることにより、異同を確定し、編集者の意図を探る準備としたい。

##### 研究組織および専門分野

南 宏信（仏教文献学（浄土学））

##### 平成26年度の研究・研究会の開催

班別研究会は開催していないが、全体研究会において発表を行った。

##### 第2回研究会

日 時 2014年6月23日(月) 14:30～16:00

会 場 紫野キャンパス8号館4階 第5会議室

〈研究発表〉

南 宏信 嘱託研究員（知恩院浄土宗学研究所研究助手）

「身延文庫蔵『決疑鈔揉議』巻第十一について―諸版本との比較を通じて―」

身延文庫は大永七年（1527）書写の『決疑鈔揉議』巻第十一を蔵する。内容を見るに浄土宗第七祖聖因撰『決疑鈔直牒』巻七に概ね対応すると思われるが、文章に相当の相違があることも確認した。『決疑鈔直牒』の現存諸本は寛永六年（1629）版が最古であり、身延文庫本はそれよりさらに百二年遡る唯一の写本である。そこで身延文庫本を繙く前作業として諸版本九種（巻七）を比較し、これらは若干の異同を認めつつも、全て同内容を保持していることを確認した。これは同時に身延文庫本の特異性を際立たせる結果となった。



## 法然仏教学研究センター組織

|            |         |       |         |         |
|------------|---------|-------|---------|---------|
| センター長      | 山極伸之    |       |         |         |
| 研究推進機構会議委員 | 門田 誠一*  | 大西鷹希子 | 坂井 健    | 李 昇燁    |
|            | 牧 剛史    | 山本 奈生 | 若尾 典子   | 小池 伸一   |
|            | 水谷 俊之   | 松島 吉和 | 鳥羽 典子   | 國枝 利行** |
|            | 岸田稔穂子** |       |         |         |
| 運営会議委員     | 山極 伸之*  | 本庄 良文 | 齊藤 隆信   | 伊藤 真宏   |
|            | 曾和 義宏   | 森 智女  | 岸田稔穂子** |         |
|            | 山本 博子** |       |         |         |
| 職 員        | 森 智女    | 山口 乾  | 山本 博子   |         |

( \* は委員長、 \*\* はオブザーバー )

## 研 究 組 織

### ■「法然仏教の多角的研究」

|       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 研究員   | 本庄 良文 | 嘱託研究員 | 市川 定敬 |
| 研究員   | 齊藤 隆信 | 嘱託研究員 | 南 宏信  |
| 研究員   | 伊藤 真宏 | 嘱託研究員 | 齊藤 蒙光 |
| 研究員   | 曾和 義宏 | 嘱託研究員 | 加藤 弘孝 |
| 嘱託研究員 | 眞柄 和人 | 嘱託研究員 | 永田 真隆 |
| 嘱託研究員 | 中御門敬教 | 嘱託研究員 | 吉原 寛樹 |
| 嘱託研究員 | 伊藤 茂樹 | 嘱託研究員 | 高津 晴生 |
| 嘱託研究員 | 米澤実江子 | 嘱託研究員 | 岩谷 隆法 |
| 嘱託研究員 | 角野 玄樹 | 学術研究員 | 武田 真享 |

## 活 動 記 録 (平成26年 4 月～12月)

平成26年 (2014年)

- 4 月 8 日(火) 研究会 (第 3 部門 (7) 伝宗伝戒班①『真葛伝語』)  
9 日(水) 第 1 回研究推進機構会議  
11日(金) 法然仏教学研究センター開所式  
研究会 (第 2 部門 (6) 中国関係班④『安楽集』)  
15日(火) 第 1 回法然仏教学研究センター運営会議  
研究会 (第 3 部門 (7) 伝宗伝戒班①『真葛伝語』)  
18日(金) 研究会 (第 1 部門 (2) 逆修説法班③『逆修説法』)  
23日(水) 第 2 回研究推進機構会議  
25日(金) 研究会 (第 1 部門 (1) 法然文献班①『和語燈録』)  
研究会 (第 2 部門 (6) 中国関係班④『安楽集』)  
5 月 9 日(金) 研究会 (第 1 部門 (1) 法然文献班①『和語燈録』)  
研究会 (第 1 部門 (2) 逆修説法班③『逆修説法』)  
研究会 (第 2 部門 (6) 中国関係班④『安楽集』)  
13日(火) 研究会 (第 3 部門 (7) 伝宗伝戒班①『真葛伝語』)  
14日(水) 第 3 回研究推進機構会議  
16日(金) 第 2 回法然仏教学研究センター運営会議  
研究会 (第 1 部門 (1) 法然文献班①『和語燈録』)  
19日(月) 第 1 回法然仏教学研究センター研究会 (法然仏教の多角的研究)  
23日(金) 研究会 (第 2 部門 (6) 中国関係班④『安楽集』)  
28日(水) 第 4 回研究推進機構会議  
30日(金) 研究会 (第 1 部門 (1) 法然文献班①『和語燈録』)  
研究会 (第 1 部門 (2) 逆修説法班③『逆修説法』)  
6 月 6 日(金) 研究会 (第 2 部門 (6) 中国関係班④『安楽集』)  
11日(水) 第 5 回研究推進機構会議  
研究会 (第 1 部門 (1) 法然文献班①『和語燈録』)  
13日(金) 研究会 (第 1 部門 (2) 逆修説法班③『逆修説法』)  
18日(水) 研究会 (第 1 部門 (1) 法然文献班①『和語燈録』)  
20日(金) 第 3 回法然仏教学研究センター運営会議  
研究会 (第 1 部門 (2) 逆修説法班③『逆修説法』)

- 23日(月) 第2回法然仏教学研究センター研究会(法然仏教の多角的研究)
- 24日(火) 研究会(第3部門(7) 伝宗伝戒班①『真葛伝語』)
- 25日(水) 第6回研究推進機構会議
- 7月4日(金) 研究会(第1部門(1) 法然文献班①『和語燈録』)  
研究会(第2部門(6) 中国関係班④『安楽集』)  
研究会(第3部門(7) 伝宗伝戒班①『真葛伝語』)
- 7月9日(水) 第7回研究推進機構会議
- 11日(金) 研究会(第1部門(1) 法然文献班①『和語燈録』)
- 18日(金) 研究会(第1部門(2) 逆修説法班③『逆修説法』)  
研究会(第2部門(6) 中国関係班④『安楽集』)  
研究会(第3部門(7) 伝宗伝戒班①『真葛伝語』)
- 19日(土) 法然仏教学研究センター開設記念シンポジウム
- 23日(水) 第8回研究推進機構会議
- 8月29日(金) 研究会(第1部門(2) 逆修説法班③『逆修説法』)  
研究会(第3部門(7) 伝宗伝戒班①『真葛伝語』)
- 9月5日(金) 研究会(第1部門(2) 逆修説法班③『逆修説法』)
- 19日(金) 研究会(第3部門(7) 伝宗伝戒班①『真葛伝語』)
- 26日(金) 研究会(第1部門(1) 法然文献班①『和語燈録』)  
研究会(第1部門(2) 逆修説法班③『逆修説法』)  
研究会(第2部門(6) 中国関係班④『安楽集』)
- 10月3日(金) 研究会(第1部門(2) 逆修説法班③『逆修説法』)  
研究会(第3部門(7) 伝宗伝戒班①『真葛伝語』)
- 10日(金) 研究会(第1部門(1) 法然文献班①『和語燈録』)
- 17日(金) 第4回法然仏教学研究センター運営会議  
研究会(第2部門(4) 門下班②「門下研究目録作成」)
- 24日(金) 第3回法然仏教学研究センター研究会(法然仏教の多角的研究)  
研究会(第1部門(2) 逆修説法班③『逆修説法』)  
研究会(第3部門(7) 伝宗伝戒班①『真葛伝語』)
- 11月7日(金) 研究会(第1部門(1) 法然文献班①『和語燈録』)  
研究会(第1部門(2) 逆修説法班③『逆修説法』)  
研究会(第2部門(6) 中国関係班④『安楽集』)  
研究会(第3部門(7) 伝宗伝戒班①『真葛伝語』)
- 11日(火) 研究会(第2部門(4) 門下班②「門下研究目録作成」)
- 14日(金) 第5回法然仏教学研究センター運営会議

報 告

- 28日(金) 研究会(第1部門(2)逆修説法班③『逆修説法』)  
研究会(第2部門(6)中国関係班④『安楽集』)  
研究会(第3部門(7)伝宗伝戒班①『真葛伝語』)
- 12月5日(金) 研究会(第1部門(1)法然文献班①『和語燈録』)  
研究会(第3部門(7)伝宗伝戒班①『真葛伝語』)
- 12日(金) 研究会(第1部門(2)逆修説法班③『逆修説法』)  
研究会(第2部門(6)中国関係班④『安楽集』)
- 19日(金) 第4回法然仏教学研究センター研究会(法然仏教の多角的研究)